

問Ⅰ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

筆者によれば、下線部(1)について、多くの会社員はどのようにして、キャリアの主導権を企業に握られつつも、「なんだかんだ、そこそこ楽しく」働くことができるのか、「中動態」という用語と「オプトアウト」方式の平等主義的・競争主義的な昇進構造という用語をそれぞれ用いて、250字以内で説明しなさい。(25点)

(設問2)

筆者によれば、下線部(2)とは具体的にはどのような人で、どのようにしてそうになってしまうのか、250字以内で説明しなさい。(25点)

著作権法により公開していません

[問Ⅰの文]

出典：小林祐児『リスクリングは経営課題』(光文社、2023年)3頁、35頁、58頁～59頁、80頁、82頁～84頁、95頁～98頁、101頁～107頁、112頁～117頁

ただし、出題に際して、見出しと文字の強調を省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は〈中略〉、原文における引用の略は〔略〕と示している。

問Ⅱ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

下線部(1)について、筆者がこのように主張する理由を200字以内で説明しなさい。(20点)

(設問2)

下線部(2)について、筆者のいう「客観性と数値が支配する社会」とはどのような社会であり、筆者が「息苦しい」と述べる理由はどのようなものであると考えられるか、250字以内で説明しなさい。(30点)

著作権法により公開していません

[問Ⅱの文]

出典：村上靖彦『客観性の落とし穴』(筑摩書房、2023年)62頁～64頁、66頁～71頁、73頁～79頁

ただし、出題に際して、見出し、原文の注および注番号を省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は〈中略〉、原文における引用の略は〔略〕と示している。